

## 風景描画解釈法 (landscape painting interpretation method) の試み

荒木, 正見  
総合文化学会

<https://doi.org/10.15017/6796243>

---

出版情報 : 総合文化学論輯. 18, pp.43-55, 2023-05-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies

バージョン :

権利関係 : Copyright (C) 総合文化学研究所 all rights reserved. この論輯の全ての文章・画像の権利は、総合文化学研究所に属します。無断での使用・転載を禁止いたします。



## 風景描画解釈法(landscape painting interpretation method)の試み

荒木 正見

### はじめに

小論は筆者が数十年に亘って試みてきた風景描画解釈法と名付けた手法の実践例を報告するものである。

長い間の理論的、実践的試行錯誤の経緯については小論以降に展開するが、この方法の特徴を前もって述べておけば、それは風景を構成したり自由画を描画したりする類似の方法と異なり、制作者自身の自己解釈を重視するところにある。それ故の長所短所や制作者との適性については気になる点であるが、小論ではまず具体的な実践例を読者が先入見無しに各自で考察して頂くことを期待する。

40年以上も前、河合隼雄先生や来日されたカルフ先生から学んだ箱庭療法を、教育の手段に導入して、一般学生の自己啓発や、セラピストやアスリートの育成などに活用してきた。長く利用してきたのは勿論それが効果的であることは言うまでもない。

河合先生の研修会では、アドバイザーやセラピストは「表現者に寄り添う姿勢を持ち、解釈や分析を発言しないように。」と言われていたが、「解釈や分析を発言しない」という点においては、ただ作成させればよいというようにもとれるので、河合先生に確認したことがある。先生が懸念されておられたのは、アドバイザーやセラピスト自身の感性や能力に対してだった。筆者自身が幼いころから絵を描き版画を作り美術部にも所属し、各種画集に親しみ、また哲学・倫理学研究者として場所の理論や倫理的価値観を学んできたことなどを聞き取られた後、「対象者に寄り添う姿勢を忘れないように。」と念を押されて、能力を磨き続けてほしい、と激励された。

一方、箱庭療法の唯一の難点と言えば、多様なアイテムが必要になることである。多様なアイテムを揃えれば揃えるほどきめ細かい表現を可能にするということで、購入したり制作したりしながら教育者という自身の立場に合わせて運営してきたが、自宅押し入れや室内にぎっしり詰まったアイテムを参加者に広げて頂いて学習することが出来る場面ではこなせるが、アスリートの合宿などの場合には実行不可能である。そこで並行して行ってきたのが描画を利用する方法であった。

描画は箱庭療法同様に、自由に表現したものを、描かれたものの象徴的意味や矩形の画面の各部分の意味などを各種シンボル辞典など参考に、自分なりの経験において再構成して様々に理解してきた。それらの試みの中で後述のように原理アプローチと物語（ナラティブ）アプローチとを組み合わせる解釈や理解の実を挙げる方法として、幾つかのアイテムを提示してそれらを基にして描画して頂くという方法に行きついた。類似の方法として優れたものとしては中井久夫先生が1969年に開発された風景構成法があるが、小論で取り

上げた方法は、描画制作の持つ退行―再統合に基づく制作者自身の自己統合を促すことに加えて、制作者自身による言語による解釈によってロゴス的な発達を促すという面を持つ。アドバイザー（あえてセラピストとは言わない。）は、この制作者自身の説明を、倫理的・人間的な発達を意識して支える。このように、この方法は治療的方法ではなく教育的方法であると言える。従って、大学や専門学校レベル以上の教育現場や指導者や医療従事者などの芸術科目的な研修場面に相応しいと思いつつ試みてきた。

なお今回の実践例はオンラインの方法も今後の課題だと、メール情報のやりとりという方式を用いた。以下、2例の実践例を提示するが、いずれもこれらの方法を素直に受け入れ一連の流れの中で見事な自己啓発を遂げて頂いた。前もって感謝申し上げる。

## 1. 風景描画解釈法実践の手順

全体の流れは以下のように行われる。

### ① 風景描画解釈第1段階.

「以下のそれぞれのアイテム(いずれも複数可)を必ず入れて

テーマ(今回は「ふるさとの思い出」)に沿って描画する。

アイテム以外のものは自由に挿入する。描画の最後に画面に署名を入れる。」

山

川

家

人

木

道

池海湖など溜り水

### ② 風景描画解釈第2段階

「自分の表現に対する自己分析・解釈を行う。」

1. 題をつける。

2. 風景描画法の下記のそれぞれのアイテムの意味と場所の意味を組み合わせ

て原理アプローチ的に解釈する。

#### アイテムの意味

山＝エネルギー量、目標（大きさ、数）。

川＝エネルギー量、エネルギーの方向、関心の方向、船、魚、亀などいけば豊か。

橋が架かっていれば過渡期。

家＝家族や家庭の状態。

人＝すべて自分の内面的人物像。

木＝価値観（描かれる場所によって主体が変わる）、理想は実のなる広葉樹で広い枝、太い幹や根。

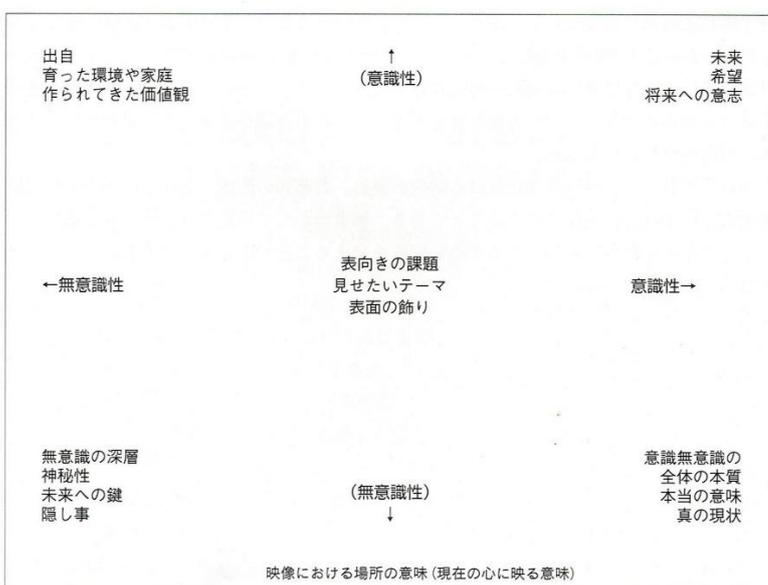
道＝エネルギー量、エネルギーの方向、関心の方向。車、自転車などいけば豊か。

橋が架かっていけば過渡期。

池海湖＝エネルギー量、無意識の深み。

その他個々のアイテムは物質的そのものとして捉えるのではなく「～性」として捉える。例「母性」。

### 場所の意味：



- 3.自分の具体的な思い出と組み合わせて、物語(ナラティブ)アプローチ的に、単なる思い出が心理的に深いものとして見えてくるようにより深く解釈する。

#### ※原理アプローチと物語(ナラティブ)アプローチ

原理アプローチ＝普遍的な原理や規則に従って解釈する。

物語(ナラティブ)アプローチ＝対象の固有の背景や地理的時代背景に因果関係を求めつつ解釈する。

#### ③ 風景描画解釈第3段階

「制作者の描画表現・自己解釈をもとにアドバイザーがコメントする。」

#### ④ 風景描画解釈第4段階

「アドバイザーのコメントに対して感想を述べる。」

以上。

## 2. 制作例1

制作者：医師（男性 64 歳）

### 風景描画解釈第1段階「描画」



↑署名

### 風景描画解釈第2段階

「自分の表現に対する自己分析・解釈を行う。」

① 題を付ける；THIS IS MY LIFE

② アイテムの原理アプローチ的解釈

山：3つある。そびえ立っている程のものではなく、到達し得るものだと捉えている。  
木々が生えていて、内容は豊かである。

川：右下から左上の海へ注いでいる。魚が泳ぎ、ボートが海の方に向けて浮かんでいる。

家・人・木：家庭を含む左下のスペースは、将来に向かって安全基地(母性性)のようなものである。笑顔の家族、ペットにも恵まれ、木々や花に囲まれている。家の建物は窓が多く、開放的である。椅子がおいてあり、休むこともできる。そこから車に乗り、橋のかかった川を渡り、山の頂上を目指す。道は多少曲がりくねってはいるが、程よい程度である。

乗り物(船、ボート、車、トラクター)や魚は、前に進む駆動力を表わしているようで、力強い。父性性のエネルギーを感じさせる。

海：左上に位置し、出自としての意味合いと共に、生命の源をも表わしている。右上(未来)の山に向かう道の脇には、作物が豊富に育っている。

### ③ 物語アプローチによる描画解釈

幼児期においては、とてもワイルドで枠にはまることもなく、多動に育っていた。その分、親や環境からは押さえつけられてもいた。しかし、自分の本質は確実に出自の下へとエネルギーを注いでいた。お陰で、そこにはエネルギー(ボート)や豊かさ(魚)が育まれていた。成長してからは、家族に恵まれ、そこで未来に向かう十分なエネルギーチャージと準備を整えられていた。これからは多少の苦労(曲道)もあろうが、これまで蓄えてきたもの(作物)を携えて、将来の目標に向かい、しっかりとエネルギー(トラクター)に進んで行く。

## 風景描画解釈第3段階

### 「筆者コメント」

- ① 署名が右下なのはこの描画が現在の状態を意味している。
- ① 題。「THIS IS MY LIFE」、自分の人生を直視するテーマ故、考察のポイントは人生をポジティブに捉えているかネガティブに捉えているのかを見極めることが求められる。
- ② 風景描画法の下記のそれぞれのアイテムの意味と場所の意味を組み合わせる原理アプローチ的に解釈する。

山＝山としては小さな山が描かれているが、木々に覆われて豊かな山である。また、右上という未来や希望や目的を意味する場所にあるため、今すぐ到達している訳ではないことを自覚している賢明な理由で小さ目に針葉樹の山として描いている。

川＝太さ、魚、ボートで示されるとてもエネルギー豊かな川が、現在を意味する右下から出自を意味する左上の海に向かって流れている。真ん中に大きな橋が架かっているので、自分としては過渡的な状態と自覚している。それは右下の現在を意味する場所にモーターのある豊かな船が係留し、その傍にやはりエネルギーがあり発達中を意味する動力耕運機が動いていることから分かる。

家＝その過渡期の出発点は夫婦と子供とペットと車に囲まれた豊かな家庭である。

「ウエルカム」と扉に書かれてあるくらい世界に開かれて温かい家庭は自分の無意識に希求してきたものだし、実現してきたものでもある。いま、そこからもう一歩踏み出そうとしている。

人＝描かれている人はすべて自分の内面的人物像だが、描かれている場所としては実年齢よりは少し若いころのイメージや記憶と重なる。その豊かさを糧に、いま、新しい家庭像を作ろうと歩み出している。

木＝その家の周りの木は、伸びていこうとする針葉樹と花が咲いている身近な低木。花が咲くだけの価値観の充実は得てきたが、さらに伸びる意欲も示される。山に生えているのも針葉樹で山を覆っている豊かさはあるが、いずれの木も枝は見えないので、これから豊かさを確認するものだという意味を持つ。ここからも新たな可能性に向かって進み始めていることが分かる。

道＝道はエネルギーのある太いものだが過渡的な橋から未来の目標の山に向かってくねっている。途中はトラクターが耕すであろう畑が囲んでいる。畑はまさに豊かな過渡的状态を意味し、未来への実現に自信を持ってよいことを意味する。大人として身辺を整然とエネルギーに整えることで夢が叶うことが確信される。そして、川の項で述べたように橋が架かっているので、今の自分はそこにいる。

池海湖＝魚が泳ぎ船がさらに左上に行く。海が左上ということは、生まれて育った環境がとても豊かに自覚されているとともに、今、もう一歩大きく発達する心身の条件も整ったとき、その出自の豊かさを自分の無意識の中からもう一度引き出して今後発達していく糧にしようと思っている。すべて、恵まれているといえる。

※ このように見てくると、豊かな出自を背景に、さらに豊かでバランスの取れた家庭を作りそのことと、エネルギー豊かな発達意欲を以て生きてきて、そして今、更なる高みを目指して意欲的に自らを耕している自己像が浮かび上がってくる。エネルギーの量・質とも申し分無くヒューマンな生き方もさらに充実することが予測できる。ナラティブにはより具体的に考えてきたこともあるが、やはり家庭と自己実現の双方を大切にしてきたことは間違っていなかったと自覚しているはずである。そしてそれゆえ、その全てを肯定したうえで、すべての新たな発達を目指す方向性は大切だし、実現は近いとさえいえる。

## 風景描画解釈第4段階

### 「制作者感想」

まずは、この度は大変貴重な時間を頂き、誠にありがとうございます。

大変お忙しい中、このような時間を頂いたことに改めて、心より感謝申し上げます。

描画作成、自己解釈、それに対する先生からの feedback、そしてその feedback を受けての感想、そのすべての過程がとても有意義で、我ながら驚くくらいに positive なスタンス

を取っていたこと、そして頂いた feedback をとても素直な気持ちで受け止められている自分がいることにより、更にこの先前進していけるという手ごたえを感じさせて頂きました。

とても嬉しく、そして大変有難く思っております。重ね重ね感謝申し上げます。

以下、荒木先生から頂いたコメントに対しての感想を述べさせていただきます。

①テーマは「ふるさとの思い出」のはずでしたが、確かに描き上げてみると、まさに「現在の状態」を示しているものでした。描いている時には意識していませんでした。

①山：画面上で、山はやはり右上、未来に位置するものだと肌で感じていました。

まだまだ先(未来)に位置してはいるけども、決して高過ぎず、身の丈に合った高さの山を、ごく自然に描いていました。

川：魚、ボート、耕運機からエネルギーの存在を自分でも感じる事が出来ました。

そして、確かに橋はこれから渡るものとしてのものであるとも感じました。

家：「過渡期の出発点」としての「豊かな家庭」、指摘して頂き、改めて自分にとっての家庭の存在価値というものがありありと、そしてリソースフルに感じる事が出来ました。これからの自分を常に元気づけてくれる存在だとも思いました。

人：「描かれている人はすべて自分の内面的人物像」ということを意識しながら改めて描かれた人物像を見ていると、それぞれの人物像に自分の希望、望ましい状態が描かれているように思えました。これからまだまだ理想とする家庭を築こうとしている自分を嬉しく思いました。

木：「さらに伸びる意欲も示される」という言葉に、背中を押して頂いているように感じました。そして、「新たな可能性」というフィードバックも更に後押しして頂いているようです。

道：「未来の目標の山」、「畑はまさに豊かな過渡的状态を意味し、未来への実現に向けて自信をもって良いことを意味する。大人としての身辺を整然とエネルギーに整えることで夢が叶うことが確信される。」

これらのフィードバックは、とても心地よく、そしてとてもスムーズに僕の体の中に取り込まれています。そしてそれが、過渡期にある自分の今あるべき姿を教えて下さっています。

池海湖：「すべて恵まれている」、最近、年々、自分は恵まれているという観念にどっぷりつかることが出来ていることを、先生から指摘して頂き、改めて「恵まれている」ことに対する感謝の念が強くなりました。そしてそのことが更に豊かさに繋がっていく様に感じました。

\*このように見てくると・・・

最後のパラグラフの先生のお言葉は、とても大きな力を僕に授けて下さり、自分の中に大きな自信を植え付けて下さっているように感じます。

先生から頂いた言葉が、僕を更に元気よく前に進ませて下さいます。

こんなに力強く、自信を持ち、腰を据えて自分の未来に向かって進んで行こうと思ったことはないのではないかと考えています。

この度の風景描画解釈法における荒木先生とのやり取りのお陰で、このところ少々迷いがあったところがすっきりしました。開き直ることが出来ました。

重ね重ね感謝申し上げます。

とはいえ、まだまだ過渡的な状態であることは間違いありません。

どうぞ今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 3. 制作例 2

制作者：元助産師（女性 64 歳）

#### 風景描画解釈第 1 段階「描画」



↑ 署名

## 風景描画解釈第2段階

「自分の表現に対する自己分析・解釈を行う。」

① 題。「再生」

② 出自 山、さほど大きくないが山々が連なっている。奥には広葉樹の山が連なり、秋には美しく紅葉する。

小さな苦労はたくさんあったが地道に乗り越えて生きてきた。鉱山の煙害で町の周りの山は枯れて、木は生えていない。家は町のほとんどが長屋（鉱山の社宅）で皆仲良く助け合って暮らしていた。暖かかった。

左下 田畑が広がり耕作地がある。手で耕したり、トラクターも動き豊かさがあった。

真ん中 学校、幼稚園、病院があり、母は助産師をしていたので、向かいの保育園で母のお迎えを待っていた。小学校に行ってから弟のお迎えを手伝っていた。町の中心にはアカシヤの木があり、香りの良い花が咲き蜂蜜がよくとれた。

右上には山の向こうに十和田湖があり、深く神秘的である。ヒメマスが泳ぎ、ボートを漕いでいる。右に進行し、希望がある。十和田湖は癒しの場所であり、エネルギー充填の場所である。母性。

右中 小坂鉱山があり、銅を中心に金銀もとれ栄えたが、1970年頃より鉱山は衰退して住民の大半は転出して行く。我が家も1971年頃に秋田市へと移動した。鉱山は衰退して行くかと思ったが、今では携帯電話などを回収してレアメタルや貴金属を抽出することに精錬技術を活用している。

右下 鉱山の衰退と共に鉄道は廃線となり、それに代わってバスやトラック輸送になっていく。バスは右下に向かい人々の外界への繋がりを助けている。

川は右上から右下にまっすぐ流れている。魚はいない。鉱毒のため石は赤く不気味でもある。その後の努力のお陰で川は鉱毒が出なくなった

③ 自分の思い出

山々に囲まれて小学校では冬は毎日スキークの練習をしに山に通っていた。アルペンとノルディックに分かれ、私はアルペン（大回転）を練習していたが、運動は苦手になかなか上達せず、先生はノルディックの選手が少ないからそちらに転向するように勧めた。が私は今までの努力がすべて無駄になってしまうと思い、一度は断ったが思い直しノルディックの練習を受け入れた。スキー大会当日は散々な成績でビリに終わったが、閉会式ではそのエピソードとして先生に紹介され褒めていただいた。結果はどうあれ練習を積むことの大切さやり直すことの勇気、やり直すことで人生は変わってくるのだと教えていただいた。この絵の中には毎日畑を耕し、学び、遊び、そして時代の変化と共に鉱山の衰退から、都市

鉱山の再利用に取り組む姿勢を示しているように見える。過渡期は何かと辛いけれどきっとその力はまだあるのかなと思う。

まだまだ表現は足りないですが、こんな感じが浮かびました。よろしく願いします。

### 風景描画解釈第3段階

#### 「筆者コメント」

- ①署名が右下なのは、この描画が現在の心理状態であることを意味している。
- ① 題。「再生」は現在再生の段階であることを意味している。
- ② 風景描画法の下記のそれぞれのアイテムの意味と場所の意味を組み合わせ、原理アプローチ的に解釈する。

山＝左から右へと連なる山脈は、すでに出自の価値観からは卒業して右上のボートが浮かんでいるくらいエネルギー豊かな無意識の湖を抱く未来へとほぼ到達している。無意識の湖はすでに、到達してからさらに深く進んでいかねばならないことを予感している。このような状態をいまから求めていくことを意味している。

川＝川が流れ出ている工場もエネルギー豊かな変化を意味している。その場所は、いまにも実現する直前を意味するので、山の湖の無意識の可能性を強化している。その川にかかっているのが現在を意味する右下の橋。橋は過渡的な状態を意味するが、バスのような車がすでに橋を渡って現状をさらに追及しようとする方向に動いているので、いまは過渡的な状態を過ぎて次の発達へと向かっている。

家＝数が多いということは、変化のポイントは家族や家庭の状態にある。

自分の内面に作られてきた家族・家庭イメージは穏やかな集落の風景に示されるように、基本的には暖かく豊かなもの。それらの人間関係の豊かさを維持しつつ発達していこうとしているが、現在を意味する右下から出ている列車が無意識の深みを意味する左下へと家々を包みつつ走って行き、その無意識の深みは目下耕されているということで、家族家庭の状態を新たに捉え直そうとしていると言える。

人＝その集落のあちこちにいる人々はすべて自分の内面的人物像。良い人々に囲まれて育った思い出とともに、これから自分になろうとするのはどの人なのかという迷いもある。しかし、絵の雰囲気からそれぞれの良い人格を身に付けてきた自覚があり、それら総合的な人格になるべく歩き始めている。

木＝迷いは数多くの木にも表れているが、どの木も大人の木なので、迷いのレベルは人生の成熟といった高い価値観をどう作るかという段階。しかもどの木もそれぞれに豊かな丸みを帯びている。今その新たな価値観に気づき、むしろ新しい変化を楽しく受け入れようとし始めていると言える。

道＝左下から右下に向かって道が走り右下に向かってバスが走っているが、現在の自分の本当のありかが画面右下であり、そこに橋が架かっているということは、過渡期に

あることといえる。エネルギー量は、豊かな大きなバスで表現され、右にむかってすでに橋を渡り切っているので、過渡期はすでに脱して次の段階に向かって進み始めている。その豊かさは、道に沿って枝の見える明るい木で示されるが、そのような豊かな過去があるからこそ、今後さらなる理想的な発展が期待できる。

池海湖＝山の項で示されたように、エネルギー量、無意識の深みいずれも十分な無意識の深みが目標でもあり、過渡期を過ぎているということは近々、より深い人間性が実現するといえる。

その実現の手がかりは、この表現でも示されているように、また、まさにナラティブアプローチで述べられた、豊かな故郷の体験だと言える。

※ このように見てくると、豊かでエネルギーッシュな体質で多面性を持つ家庭を運営し、さらに今、一つの転機を超えて、自分を深めるべき未来に向かって歩き出している姿が見える。普通だと未来の目標というのは固定的なものとして表現されるが、この場合は、むしろみずからの無意識をさらに追及する場への希求という意欲的なものである。そして、全体のエネルギーの量・質を考えれば必ずや実現することが予測できる。それを作ったのが故郷にあるということで、今となれば恵まれた環境に育ったことが宝であることを再認識できたのではないだろうか。

## 風景描画解釈第4段階

### 「制作者感想」

この風景描画解釈を体験して感じたことを拙い文章で書いていきます。

私は普通の家庭でのんびりと育ちました。父母は他界し、兄や弟とは疎遠になり、故郷は遠く感じておりました。幼少期は何をやってもうまくいかず、兄は医師になりましたが、私は自己肯定感が低く、誰からも期待されていないと思っておりました。が、風景描画解釈をしていく中で、家族のため、友人のため、小学生の頃祖母を看護したり、貢献の貯蓄をしたりしてきたのだなぁと感ずることができました。

何か転機が起きて、ピンチになった時もそれに耐える力、乗り越える力はこの頃から身についていたのかなぁと思うことができました。

今年もうすぐ、母が亡くなった年齢を越えることができます。支援者として生きた母でした。去年自分が骨折した際に自分は今からは自分のために好きなことをして生きようと思いました。ところが、回復してきた時にメンタルは落ち込んで、でも、痛みや苦しみを抱えた人に会おうとそこに手をあててしまうのです。人は誰かのために自分ができることをして初めて回復するのではないのでしょうか。

ここまで書いてきて、楽しみ（エゴ）と貢献（支援）は両方がバランス良くあってこそ成り立つものではないかと思えます。

最後に、私は自分のことは何も決められずに生きてきました。この解釈法を通じ、自己を見つめ直し、自分はどうしたいのか、どう生きたいのか、自分で決めて動いていくことが大事だと思いました。

#### 4. まとめと今後の課題

当初に述べたように今回の制作者は自己啓発のエネルギーが質量とも満ちていることが明らかになった。これまでの経験から、この方法は自己啓発能力や自己反省能力が豊かな人々に相応しいと感じていたが、今回のケースはその典型であると言える。

この風景描画解釈法が有効である場面については、論理的考察の適性を挙げる事が出来る。自己解釈にポイントを置き、原理アプローチと物語（ナラティブ）アプローチとの両アプローチを生かして考察するという具体的手法まで提示するのであるから、論理的思考に慣れていることが必須である。

しかし、論理性を形式的に捉えすぎて、表現の個性を削ぐようなことがあってはならない。

このたびの二人の制作者の自己解釈（第2段階）を見れば明らかなように、各アイテムの意味（原理）とその個人的背景（物語）とがそれぞれ個性的に融合していることが見て取れる。この融合こそが各自の個性である。そして、論理性とは、その融合を自他にとって分かり易く述べているという意味である。

このような自己研鑽の手段は対象者の個性に応じた方法を選択すべきである。筆者の長年の試みではやはり、論理的な自己表現に対する適不適があることを知った。アドバイザーにとってはその見極めも重要だし、相互交流の中で対象者に合った論理性を提供することも必要だと言える。

他方アドバイザーの側は、原理はあくまで媒介であり、メインは対象者の物語であることを忘れないようにして、支えなければならない。第3段階におけるアドバイザーのコメントは、論理的交流ゆえに明晰に見えてくる物語をアドバイザーの先入見で歪めてはならない。かといって放置して自己の傾向性にのみ任せるわけにはいかない。教育であれ自己研鑽であれ、発達を目標とするものだからである。アドバイザーのバイアスを超える倫理的原則だけは方向性として見失わないようにすべきであるが、その究極の原則は人類の生存である。この点は倫理的素養を要求することになる。ともあれ、今日物語アプローチが教育や医療において重視されるようになって、それは対象者に寄り添う姿勢と密接に関

係しているとされることと同義であることを認識しておきたい。

その意味に於いて第4段階の「制作者の感想」も重要である。教育であれ医療であれ、最後には必ず反省と評価を行わなければならないが、この風景描画解釈法は論理的要素が強いだけに対象者の気づきが強く出る。それを出しやすくするためには、この例でも明らかかなようにできるだけリラックスして、感謝の言など出やすい環境を作って本音を引き出すことが望まれる。

瞥見すれば明らかかなように小論は風景描画解釈法の一例を挙げて具体的方法を述べたに過ぎない。その最大の特徴は論理的要素が強い方法だということは述べてきた通りである。

従って残された問題は多い。最後に残された課題の見通しを掲げて今後の道標としたい。

第一に今後も検証していかねばならないことは、この方法の妥当性である。様々な機会を捉えて今後とも試行し、評価を確認すべきことは言うまでもない。

第二にこの方法の妥当性を検証するためにも、この方法に行きついたこれまでの試行錯誤を再確認しなければならない。

第三にこの方法の検証を基にして更に効果的な方法を模索しなければならない。

そして、そのそれぞれにはきめ細かい問題を内包することは言うまでもない。

それらすべてにおいて、必要なのは第三者の見識である。小論を呈示したのもそのような反響を期待してのことである。読者の皆様からの情報を心よりお待ちしております。

最後に、河合隼雄先生におかれましては1970年代、筆者が大学院学生の頃初めてのご指導を頂いて以来、2007年にお亡くなりになる直前まで、折に触れてご指導、ご鞭撻を賜りましたことに心よりの感謝を捧げたく存じます。また、この論考の成立において、試読やキーワードへのご意見などにご助力いただいた西健太郎先生、西静子先生、向井均先生、河村しのぶ先生他の諸先生方に感謝を申し上げます。

[Cases of landscape painting interpretation method]

[ARAKI, Masami・総合文化学会・哲学、倫理学、比較思想]